

新年あけましておめでとうございます。
2003年も三千里鐵道へのさらなるご理解とご協力を頂けますよう、お願い申し上げます。そして皆様方にとって素敵な1年でありますようお願い申し上げます。

謹賀新年



三千里訪朝団と共和国代表団



12月4日よりピョンヤンに行ってまいりました。5日に南北鐵道連結資金として非武装地帯の線路1Km分として680万円を、共和国内閣に伝達しました。

三千里鐵道側は都相太と賛助会員の金在根氏の2人が行き、朝鮮総聯から愛知県本部李都相副委員長および李博之国際部長が同行してくれました。

伝達式における共和国側出席者は、内閣事務局副部長ペク・リョンチョル、鐵道省副局長キム・テギル、貿易銀行副総裁キム・ミョンソツ、労働党中央委員会総聯指導課指導

募金を伝達した翌日ピョンヤンから約160Km南のケソン(開城、非武装地帯すぐ北側の都市)まで行き、鐵道分断点を視察してきました。

当初、非武装地帯の鐵道工事現場まで行く予定でしたが、軍との調整がうまくいかなかったようで、ケソン南3Kmが限界でした。

写真にある分断点は、北側の工事着工式を挙行したところです。

鐵道路盤は完成し、後は枕木、線路の敷設を残しています。韓国製の大型ダンプが行き来し、非武装地帯の鐵道、道路工事が進捗していることを実感できました。



北側鐵道分断点
これより南数キロ地点が非武装地帯

共和国雑感 三千里鐵道 理事長：都相太

ピョンヤン空港は薄暗いなかでの入国審査と漆黒の闇と深い霧と雨であった。ロビーを出ると街灯は全部消され、深い霧の中、出迎えの車のヘッドライトが異様に眩しい。二十分ぐらいで宿泊先の高麗ホテルに到着。ホテルも暗かった。

二百五十万都市のピョンヤンは、きれいに整備された街路と高層アパートの連なりであった。また、モニュメントの都市であるといっても過言でないようだ。小高い丘にある金日成銅像、大同江河畔のチュチェ思想塔を短時間訪れたが、そこからチョンリマ銅像や解放塔などが眼に映る。

市内での移動手段は市電、トロリーバス、地下鉄が主なもので、バスは多く走っていない。市電・トロリーバスは年代物で地下鉄車両も同じようであった。生活水準の指針といわれる鉄の生産が、いかに少ないかを教える。

エネルギー不足は、夜になると歴然とする。市電、トロリーバスが前照灯、室内灯を消して走る。交通信号は一機もなく、昼間は女性、夜間は男性の手旗信号が、さして多くもない車両を手際よく誘導する。

ホテルの食事は贅沢ではなく、好ましい量と質であった。特にキムチの上品な味にはびっくりする。しかし精算段階では、日本の一流ホテルと変わらぬオネダンであつことは付記しよう。

ついでに冷麺で有名な玉流館の感想を一つ。冷麺は寒さにふるえて食べるものでないことが教訓となった。案内人の配慮で昼食を玉流館でということになったが、やはり暖房設備は切られ、寒さの中での冷たい麺ののどごしは味気ないものであった。

ピョンヤンからケソン(開城、高麗時代の首都)までは百数十km、片側三車線の高速道路が続く。日本の高速道路を見馴れたものにとって、安普請であることはすぐわかる。当初、韓国の京釜高速道路もそうであったように、人々の生活圏を分断している。また、構造物と土工部との段差が転圧不足で大きくなり、危険でもある。所々で中央分離帯がとぎれ全面舗装している箇所は、ジェット機の離着陸で、韓国も同じで分断と冷戦の象徴でもある。とにもかくにも車両が少ない。この百数十km区間で対向車が三十台あったらどうか。物流が途絶えているのは事実のようだ。



開城 駅
京義線は
この駅から・・・
この駅へと・・・
その日はすぐそこに



【共和国内閣から三千里鐵道への領収書】

支 援 証 書

敬愛する金正日將軍様の遠大なる祖国統一構想による、民族の血脈と地脈を再び引き継いでゆく北と南の鐵道連結事業に、愛国愛族の心で680万円を支援した都相太同胞を高く評価する。

朝鮮民主主義人民共和国
内 閣

主体91(2002)年12月5日

注) 上記の領収書(支援証書)が発行されたのが12月6日の午後5時近く。三千里鐵道ではなく都相太個人名が記されていたので抗議。

後日、三千里鐵道に対する領収書(支援証書)を、総聯愛知県本部を經由して送付するという約束のもとで、上記を「仮領収書」として受け取ったものです。



謝辞 ご高齢にもかかわらず無理して同行していただいた金在根賛助会員に感謝すると共に、共和国での折衝をしていただいた総聯愛知県本部の副委員長および国際部長に謝意を表します。

また、三千里鐵道の運動にご理解を示し、共和国に書簡まで伝達し、三千里鐵道一行にご配慮をしていただいた金鎮度総聯愛知県本部委員長に心よりの謝意を表します。

都 相太

第一次 募金伝達 訪朝 報告集会！

開催日:2003年3月1日(土)

開催時間:午後2時~5時

開催場所:あいちNPO交流プラザ

名古屋市中区三の丸三丁目2番1号

(愛知県東大手庁舎1階)

問い合わせ先: 0532-53-6999 (三千里鐵道事務局)



“帰らざる橋”

NPO法人三千里鐵道では、北朝鮮への募金伝達報告を上記の日程で開催する予定です。詳細なプログラム等は、2月に入りましてから皆様方にお知らせできる予定となっております。(現在調整中です) 楽しみにしててください!

- 京義線待春 -



【画 前田泰成】

昨年3月にJSAツアーに参加してくれた、前田さんが描いてくれました。
(カラーでお見せできないのが残念です・・・)

編集後記

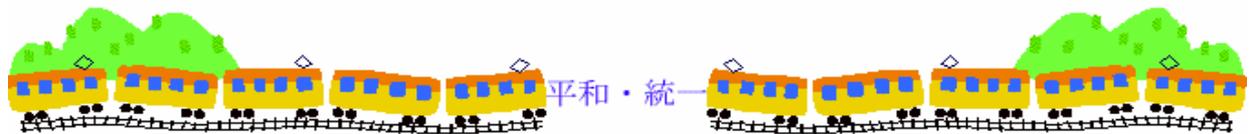
多くの方からお預かりした募金を両国政府に伝達でき、ホッとしている反面、朝鮮半島をとりまく嫌なニュースもあった2002年。そして、2003年が静かにスタートした。

1番列車とはいかなくても、南北がつながった電車に乗ってみたい。目に見えない軍事境界線を越えて。

きっとそこにあるはず。僕たちの涙、夢や希望が。

統一列車に乗って風となり、大地を吹きぬけ、雲と戯れながら。。。

(そん)



海外同胞と、平和統一を願う世界の人々と手を結んで・・・

NPO法人三千里鐵道 〒440-0091 愛知県豊橋市下五井町青木31
Tel: 0532-53-6999 Fax: 0532-54-4931
Email: webmaster@sanzenri.gr.jp
web: <http://www.sanzenri.gr.jp>